

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔精肉〕 （店長）	・地鶏の鍋物など、季節に合わせた新メニューの展開により販売量の増加が期待できる。
		一般小売店〔書籍〕 （店長）	・書籍、文具、雑貨など各分野で必需品以外の購買が幅広くみられ、この傾向は当面続く。
		百貨店（営業担当）	・冬場に向かい、原油の高騰など多少の懸念材料がある。しかし、冬物ファッション、暮らし関連商品、食品などは低価格品から上質の高額品までバランスよく動いており、消費は全体的に上向く。
		スーパー（店長）	・秋物衣料において、本来最も節約を余儀なくされる30～40代のヤングミセス層の売上が顕著に伸びており、景気は回復方向に動いている。
		コンビニ（経営者）	・来客数の減少傾向に歯止めがかかり、新規客が徐々に増加している。また、単価もわずかながら上昇傾向にあるため、先行きに若干明るさがみえる。
		衣料品専門店（経営者）	・今年は寒さもタイムリーに到来しており、婦人衣料の売行きは良くなる。また、ウォームビズにも期待が持てる。
		家電量販店（店員）	・依然好調なテレビとDVDの販売が年末に向けて拡大する。この傾向は来年秋に地上デジタル放送の実施局が拡大されるまで続く。
		その他専門店〔医薬品〕 （営業担当）	・客の買物態度をみると、生活に必要な商品ではより安く購入するか、まとめ買いをするなど経済性を重視している。一方、自分の欲しい物、例えばダイエットや美白商品では新製品を中心に積極的な購買態度がみられ、先行きに明るさがみえる。
		一般レストラン（スタッフ）	・米国産牛肉の輸入再開が実現すれば、牛丼店に客を奪われる懸念もあるが、外食全体にとっては好材料となる。
		通信会社（社員）	・新機種の携帯電話の登場により、販売台数の増加が期待できる。
		通信会社（営業担当）	・携帯電話の新サービスや新機種の充実に加え、ボーナス時期が重なって冬商戦は期待できる。
		テーマパーク（職員）	・海外からの団体客の獲得が若干見込める。
		住宅販売会社（従業員）	・土地の販売は堅調であり、新しく始めた借り上げ保証付き賃貸住宅の反応も良かったため、業績向上が期待できる。
変わらない	変わらない	一般小売店〔事務用品〕 （営業担当）	・年末に向けての見込みや引き合いが少なく、事務用品の販売価格や売上は横ばいで推移する。
		百貨店（営業担当）	・ジャケットやインナー類のセット販売を強化しない限り、コートなど重衣料の販売不足分はカバーできない。また、今後気温が下がらないと、コートの値下げが懸念される。
		スーパー（店長）	・今後、灯油の値上げが家計に影響を与え、スーパーでの食品購入額の減少が懸念される。客は更に安い商品を求めるため、厳しい状態が続く。
		スーパー（営業担当）	・客の買い回りが続いており、来客数は維持できるが、単価は低下する。また、冬に向けて灯油の値上がりがか家計を圧迫し、食費の支出が減少する。
		スーパー（副店長）	・プロ野球在阪球団の優勝セール実施中は来客数が増加しているが、客はバーゲン商品でもより吟味してから購入する傾向が目立つ。客の厳しい買物行動は今後も変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・新規客の伸び悩み、買換車の小型化や買換期間の長期化などにより売上の減少傾向が続く。
		乗用車販売店（経理担当）	・マイナーチェンジの車種はあるものの、受注ペースからみて現状を打破するほどの期待はできない。
		自動車備品販売店（従業員）	・最近の消費税のアップ、所得控除の見直し、定率減税の廃止やガソリンの高騰などのニュースの影響で、車関連の支出を抑える意識が強くなっている。半面、省燃費の商品への関心は高くなっている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 （経営者）	・工場向けの燃料の販売量は若干伸びているが、ガソリンスタンドでは相変わらず過当競争が行われており、現状が継続する。
		高級レストラン（スタッフ）	・愛知万博の閉幕後、団体旅行の予約は好調であるが、地元客の予約が前年の85%と伸び悩んでいる。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約保有からみて年内は前年を上回ることが非常に難しいが、1月以降は前年並みで推移する。

		都市型ホテル（スタッフ）	・レストランの通常営業の利用客が増加傾向にあるが、婚礼宴会の受注件数の減少が続いており、売上は現状のまま変わらない。一方、費用面では重油価格の高騰により水道・光熱費が上昇する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・来月以降の予約は低調である。
		タクシー運転手	・高騰する燃料費、多すぎる同業者数、減少する利用客数など、厳しい状況が今後も続く。
		テーマパーク（職員）	・予約状況からみて、団体募集企画旅行の動きが鈍いため、年内に大きな回復は見込めない。
		住宅販売会社（従業員）	・分譲住宅の販売があまり進まず、市場への供給を当初の予定より減らした影響もあり、現状維持で推移する。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街の再開発工事が本格化するため、来客数が減少する。
		百貨店（営業担当）	・2、3か月先はセール商戦の真っ最中であるが、このまま気温が下がらないと、コートの販売で苦戦する。また、コートに代わってジャケットが売れると、これに次ぐ流行商品が不足する恐れがある。
		スーパー（店長）	・近隣に競合店が出店し、チラシ合戦が続くためコスト高になっている。また、競争上から目玉商品を並べざるを得ず、今後利幅が更に減少する。
		コンビニ（店長）	・米産牛肉の輸入が12月に再開されると、牛肉専門の飲食店に客が流れ、コンビニ弁当の売上が若干落ちる懸念がある。
		パチンコ店（店員）	・今後、人気台が検定切れで外れるため、来客数が伸び悩む。
		競輪場（職員）	・入場者数は若干回復したが、1人当たり売上高に若干減少傾向がみられる。
		住宅販売会社（従業員）	・原油高に伴う資材高騰分を製品に転嫁しにくい状況の下で、コストの吸収が厳しくなる。
	悪くなる	タクシー運転手	・タクシー台数が多すぎる。今後更に悪化し、共倒れ状態になる。
企業 動向 関連	良くなる	一般機械器具製造業（経営者）	・10月に開催された工作機械の見本市では機械本体への関心もさることながら、関連部品・装置などに対する注目度が圧倒的に高かった。これが来場者の増加につながっており、先行きは期待できる。
	やや良くなる	食料品製造業（企画担当）	・商品価格の改定が順次進んでいるなかでも、受注量が落ち込まず、今後収益の回復が期待できる。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・多品種小ロットであるが、このまま新製品が増加すればかなりの売上が期待できる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・原油価格の上昇でコストアップとなるが、取引先に対する価格の転嫁が厳しい状況が続く。
		繊維工業（経営者）	・繊維業界ではポリウム商品は海外からの輸入に頼るため、今後の生きる道は企画商品にかかっている。
		金属製品製造業（経営者）	・2、3か月先の受注の入り具合は現状と変わらない。
		建設業（総務担当）	・全体に工事件数が増加傾向にある半面、工事が小型化している。このため施工人数が不足し人員配置が困難な状況となり、受注に制約が生じる。
		金融業（融資担当）	・原油高騰による原材料、副資材、物流コストの上昇が収益を圧迫するという声がよく聞かれるが、実際には増収効果によりその負担感はまだ表面化していない。当面は現状のまま推移する。
		司法書士	・事業用資産の購入や新しい事業所の設置などが一部の業績の良い企業に偏っており、一方では多重債務の相談も減っていない。この現状が当面続く。
		やや悪くなる	精密機械器具製造業（経営者）
		建設業（経営者）	・工事量をそれなりに保有している会社でも、年末完成工事の支払時期に当たる来年1月に資金手当てができず、かなりの会社が倒産、廃業する懸念がある。
	悪くなる		
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・派遣、紹介を問わず、1社当たりの求人数が増加傾向にある。

	職業安定所（職員）	・学卒者の就職内定率が9月末で前年を12.5ポイント上回っており、若年者の常用就職や後継者育成など企業の前向きな姿勢が強まる。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・年末に向けてパート・アルバイト求人は季節的に増加するが、正社員募集には企業の求人意欲がみられず、雇用の増加につながらない。
	新聞社 [ 求人広告 ]（担当者）	・この3か月間の売上は前年の70～80%で推移しており、しばらくは現状が続く。
	職業安定所（職員）	・新規学卒求人は大学等で前年比30.5%増、高校で同19.2%増と堅調であるものの、全体の求人状況をみると本年上期平均の非正規の割合が前年同期比1.2ポイント増の52.1%である。また、本年上期の非正規求人のうち常用雇用は前年同期比10.7ポイント増の50.3%となっており、非正規求人の増加傾向が当面続く。
	民間職業紹介機関（経営者）	・求人は業種間にばらつきがあり、この先も現状は変わらない。
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-